

平成28年 9月26日

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp

HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

2016年9月期オランダ/フランス出張報告含む

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

6月以来の情勢報告となります。

怠けておりました。申し訳ございません。

お繋ぎしたいお話は山ほどございますが、切りが無いので控えます。大事そうかな…と思う事のみにして、出来るだけ短めの情勢報告にしたいです。

無理かな……。

オランダ産チューリップ

切花用/営利栽培家用球根の発注確保数は、やや減少していたようです（日本全体）。

加えて、近年との比較ではかなり高い割合の欠品報告が断続的に入り始めています。

①日本向けロット番号が結果的に取得できなかった。

②ザリウムを中心とした品質不良、たちの悪いタイプ[®]のザリウムで、低温（9℃以下）に管理温度を下げても病気が進行するタイプの発症率の高さが、主たる欠品理由の様です。

納品させていただく球根品質に不安を感じています。

オランダ産アイリス

30℃輸入分

まずまずの品質だと思います。

9℃輸入分

大きな輸送事故が発生してしまい（アンモニアガス漏れ事故）、ご注文分の球根、全量を入れ替えるという作業が発生しました（約700,000球）。

それらの球根の納品が既にスタートして生育し始めていますが、代替えとして確保した球根にもかかわらず、まずまずの結果となりそうです。

小さなサイズでの代替ですから、ややボリューム感に欠けるかもしれませんが、全国的に各切花生産地の作型競争を出来るだけ減らす、球根納期/作型にメリハリをつける対応もある程度出来たと思います。

なんとか昨年[®]の切花販売苦戦から取り返してもらえれば、と思います。

アイリス

当社としては、十数年ぶりに復活させた球根流通方法。（BOT社分・P.O社分）

しかも、P.Fオニクス社取扱いとしては、本邦初流通分となっております。

新潟県内のみで実験的に流通されておりますが、初期生育は9℃冷蔵輸入のそれより良く揃っている様です。

最後までうまく行ってほしいです。

国産百合球根

15年産（抑制切花用）

バリス少なめ。輪少なめ。葉焼け少なめ。丈短め。ロット間のバラつき有り。

但し、採花率は高めとなる様子。
国産球は、オランダ比率が高い。
切花価格推移としてはやや苦戦しているのか？

16年産（ドライセル用中心）

A. H/L. A=肥大良好。収穫率高め。生産量を減らしていたおかげで販売もまずまず順調。
O. H. O. T=肥大は普通。但し元々球根が強くない品種、日本の気象条件と遭っていない品種の収穫率は悪かった。注文分に対して欠品しているような有様。
ご迷惑をお掛けしています。申し訳ございません。

**卸売販売業者の皆様から掘り取り後の確定在庫を追加販売していただきました。
大変ありがとうございます。**

16年産（新潟県産抑制切花用）

もう少し様子を見ないとわからないが、肥大は普通からやや大きめ。やはり雨が多い年は太りが良い。
但し、それが「力の有る球根」となるかはまだ分からない。

16年産（北海道小清水産）

本年東日本では最も気象の影響を受けている球根産地と言えるのではないか？
水没・土砂崩れ等による欠品が発生している。
一方、本来雨の少ない北海道で、灌がい設置されていない圃場で球根が生産されている事から考えれば、
本年の様に十分すぎる雨を貰った作柄は…

太り過ぎるくらい太っている様子です。

太り過ぎからくる流通上の不具合が出てくるかもしれません。

フランス産百合球根

15年産

前年（14年産）入荷球数はほぼO. H/O. Tのみで約6,500,000球。
本年（15年産）入荷予定球数は、前年同様O. H/O. Tのみで約9,500,000球。
大幅に入荷量は増加しています。

4月/5月上旬定植までは、十分な低温積算がなされていなかった様で、やや輪付き不足となりました。

5月後半出庫分からは、フランス産との比較で明らかに良い結果が出たと思います。
酷暑期におけるフランス産との差がかなりはっきり示されたのではないのでしょうか？

シラのブラックレース発症率は、相変わらず高めで、皆様には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、過去3年間の発症の仕方とは若干違った様です。（同一ロット、同一入荷分、ケース毎に障害率がまるで違う…。）

9月以降の定植分、いわゆる遅い作型でのパフォーマンスに注目しています。（特にO. T系で…）

16年産

4年連続同一時期の圃場確認を実行しています。
取扱予定6軒の栽培農家の圃場を確認してまいりました。
印象は…、
6軒とも4年前、昨年との比較で明らかに栽培技術が上がっていると思いました。
N. Z/CHの様にまだ前向きな大きな施設投資は行われておらず、世界市場に対しての普及も進んでいませんから、栽培面積はむしろ減少しています。
但し、フランスのオーナー農家から栽培を委託された、フランスの実際栽培されている受託生産者たちは、今までとは眼つきが違う。その本気度がはっきりと圃場品質に出ていました。

作況は…

過去3年間とはかなり違います。

13年産（隔離免除前年から調査開始。前回のC.H（刊）、前々回とN.Z同様の調査方法。）、14年産、15年産は、9月上旬の段階ですでに球根仕上がり目標サイズに肥大到達していました。9月以降は、球根を肥大させ過ぎない管理が仕事でした。

16年産については視察時点で、目標サイズに対して1サイズ～1.5サイズ肥大が足りていませんでした。

9月10日以降～10月20日くらいまでの間にどれだけ肥大できるかが勝負ですが、栽培面積が減少しているだけに少し心配しています。

肥大不足の原因は、栽培農家・品種毎に違いますが、2要因ほどある様です。

1) 春先の天候不順・低温。一部圃場にて、4月後半/5月上旬の遅霜の害。（プレミアムロット/ハセブラ/イエローウイン etc.）

以降、低温傾向が6月中旬まで続いた。

2) その後、40年ぶりと言われる干ばつ・高温。

これは、6軒の農家とも全て対象となっております。（初日の最高気温は、午後4時過ぎに40℃！）

*この高温干ばつ傾向は、まだしばらく続いている様子。とにかく気温が下がって十分に雨が降ってくれないと…。いくら水をくれても追いつかなかったようです。

品質は…??球根の定植時期/使用時期を間違わなければ悪くはならないでしょう。

販売状況

世界市場に向けての販売状況は不明ですが、日本市場に向けては15年産/16年産比較で、増加が見込まれていました。面積が減っているのになぜ？

16年産からフランス産鉄砲百合、フランス産L.Aの取扱いが開始されるからです。（推定約2,200,000球）。

O.H/O.T系の需要は強いものの、15年産並みの入荷量となるかどうかはわかりませんが、2品目が追加されることにより、前年を上回る入荷球数を予測していたのです。

オランダ産百合球根

15年産

品質傾向予測はやや外れたなあと感じています。

もっともっと事故が多発する年になるだろうと身構えておりましたが、想像していたよりは事故発生数・発生割合とも低かった様です。

一部ブラックノーズ（酸欠/凍傷型）。

一部腐敗（ほぼ球根生産時酸欠が原因。とにかく掘り取り前地温が高すぎた）。

一部LMOVバラス（昨年霜の害を受けた畑の球根で管理が十分でなかったロット）。

特定ロット/品種に事故は確認されましたが、全体傾向とは言えなかった様です。

2つの理由で輸付きの悪さが指摘されておりました。

1) 15年産球根生産時掘り取り直前の地温と、掘り取り後の管理温度のギャップの大きさから発生する低温積算不足。（前半戦の輸付きの悪さの主要因）

2) 品質改善の為に実行した母球更新の為、「若い球根の割合が増えた古い品種」があった様に思います。

*オランダ産L.Aについては前半戦作型より、明らかに輸付きが改善されている（増えている）。

着荷時/又は冷蔵庫内芽伸びが確認されているにも関わらず、頂点花発症率が平年より少ない。

*普通到花日数が長くなるはずなのに、今年の日本は夜温が下がらない。到花日数が短くなっている為、気付けなかった。

秋作型のパフォーマンスの良さに、ちょっとビックリしています。

シベリアでは、「葉枚数の少ないロット」が目立ちました。「16/18サイズなら本来？枚以上、18/20サイズなら本来？枚以上なければ、又は？枚以下でなければ草姿のパランスが取れない」という大まかな目安があると思いますが、少し外れロットが多かった様に思います。これは、当社取扱い球根のみの傾向とは言いにくい。

やはり全体傾向の様でした（オランダの球根生産時気象要因…）。

*2N（2年連続栽培普通掘り）球根のパフォーマンスが良かった年となっています。

素性を明かさずに流通した球根で出来が良かった…。追跡したら2Nだった…というケースも目立ちました。

15年産は良くても、他の年ではどうなるのでしょうか？

やはり素性ははっきりしておかないと！

16年産（来年納品分）エマニーの球根で、2N球根を販売していた輸出入業者は居ましたか？私の認識では1軒もおりません(当社含む。これから調査です。)ところが、オランダの圃場調査を実行すれば、実はその面積比率は1N?%2N?%となっています(現地確認してきました)。

*今後は、Plamv問題・ネトダ問題までふまえて、2N球根栽培比率はどうしても高まってくるはずで、2N球根の流通、適正作型の見極めは重要な課題になると考えています。

流通状況

A.H/L.Aは…、

12年産との比較で、13年産/14年産日本市場は、A.H/L.Aの入荷量を大きく減少させていました。

①関東甲信地区雪害による作付減少

②オランダ産不作による日本の輸入業者仕入確保ミス(取引後半にほとんど球根が確保できなかった。)

*この事により、15年産A.H/L.Aの取引時期(対オランダへの発注確保時期は前年/前々年より大幅に早まり、+αの球根が確保されていた。)

*主要3輸出業社、複数の輸入業社からの聞き取り調査によれば、12年産の水準までには回復していないものの、14年産との比較で言えば約7%くらいは増加している様です。(おおむね1,800,000~2,200,000球増加。)

*15年産輸入時における「植物防疫統計」(15年12月検査/16年1月検査分と、前年同時期とを比較してみてください。兆しが見て取れると思います。当社ホームページに載せてあります。)

O.H/O.Tは…、

8月末までの各国別入荷球数を見れば明らかのように、フランス産が増加している分だけオランダ産は減少しています。(オランダ産に限れば約3,300,000球減少。)

加えて、A.H/L.Aが前年対比で増加していることを勘案すれば、オランダ産O.H/O.T系の減少は5,000,000~6,000,000球以上の減少となるのかもしれませんが。(あくまでも8月末での分析です。)

先の事はわかりませんが、近年の輸入量が今後維持されたとしたら…

	トライセル用球根 (品目分類不可能)	A.H/L.A (Longi含む)	O.H/O.T (その他種間交配合む)	
南半球産	± 0 球	± 2,500,000 球 (減る?)	± 22,000,000 球 (ほんのちょっと多い)	
オランダ産	± 5,800,000 球	± 29,500,000 球 (減る?)	± 48,500,000 球 (減るかな?)	
フランス産	± 0 球	± 2,200,000 球 (減る?)	± 9,500,000 球 (もうちょっと増えたほうが良い…)	
	± 5,800,000 球	± 34,200,000 球 (減る?)	± 80,000,000 球 (? ?)	

日本市場におけるO.H/O.T系球根消費のピークは、2003年の約115~125,000,000球。まだピークから見て34%くらいしか減っていない。他の球根切花類に比べれば大健闘です！

但し、2003年当時はほとんどオランダ産のみの球根でした(南半球産約15,000,000球のみ)。今は球根生産地が分散していますね！！

オランダ産輸入量の減少は、日本向け品種開発速度に少なからず影響を与えるだろうなあと感じています。

16年産

生産状況

当社ホームページにある栽培面積表品目別色別面積推移を参考にしてください。

特に、ピンクO.H系の面積推移に注目しておいてください。(13%も減少しています。ピンクO.T系の増加では、O.H系減少の球数は埋めきれません。ピンク不足は実は日本だけでなく、世界市場に対しての傾向なのだそうです。)

北部生産地域

養成球生産面積激増。母球生産面積激増。(Plamv対策)

別種のポテックスウイルスが多発している地域なので、この動きが正しいのかどうかはまだ判断できません。
販売用開花球生産面積は少ないですが、作は良いと思いました。

東部生産地域（ノースポルダール含む）

春先は天候不順。

今は、大幅に作況回復していました。

2002年から9月期圃場調査を行っているが、記憶にある中では良く太っている年と言えると思います。

この所、東部地区の球根生産は分が悪かったのですが（作況が悪かったが）、今年は挽回できる年になるのでは？L.Aの作況も良さそうです。

南部生産地域

水害の影響を受けている地域。

水没して枯れてしまった畑はもう見る事はできない。（既に廃耕されて整理されていた。）

厄介なのは水没の影響を受けているが、生産が継続されている畑。この作況が見えません。肥大は明らかに悪い。16/18、18/20の日本向けサイズ球根が、20%欠品になるのか、80%欠品になるのか？私には全く見極めが付きませんでした。

V.Z社のみ、被害を受けた直後にカブラカVOFTYS球根20/UPを90%以上欠品させてきた畑を見てきました。

球根は生きていました。但し太ってはいないのです。これが南部被害畑の傾向だとしたらよろしくありません。（シベリアで、複数圃場同様の傾向を示している畑がありました。）

***被害を受けていない畑の作況は？他地域同様、肥大は良い様です。品質は？まだ少しコメントしにくいです。**

*特記事項として、フランス産を含めてロシア3地域共通だったのは、昨年又は例年比較でずいぶん芽が小さかったです。

この事の持つ意味は？

まだ判断が付いていません。

対日市場という意味では無く、国際市場においてという意味でこれは欠品・不足気味となるだろうなあと感じたのは、ロシア・シベリア・カブラカあたりでしょうか…？（面積減少が大きい。被害面積割合が大きい。）

その他品種では…

プレミアムプロド20/UPは、ヤバそうですが、（フランス産プレミアムプロドは、霜害の為、ロシア産より作が悪い様です。残念…。）16/18・18/20サイズはさほど欠品しないのではないかと思います。（8/10・10/12サイズ定植圃場の作況は、素晴らしかった。12/14サイズ定植圃場は？？水害の影響??）

今年の作況調査・予測は、輸出業社にとっては「むずかしいだろうなあ～」と思いました。

流通状況

世界市場全体で見ると…

「商売は遅れている…どのくらい？前年比2~3ヶ月くらいかなあ…」との事です。

中国市場のロシア・シベリアは、取引が進んでいる。（6月までに大きな取引が行われた。）

メキシコ市場のL.Aは、取引が進んでいる。（O.H/O.Tは遅れている。）

ベトナム市場のL.Aは、取引が進んでいる。（トータルでは横ばい。）

台湾市場のO.Tは、取引が進んでいる。（トータルでは減少。）

日本市場のO.Hは、取引が進んでいる。（L.Aは減少するのでは？）

いくつかの国で、いくつかの品目は進んでいる…。

世界市場全体では、かなり遅れ気味だそうです。

作況予測とも相まって、一部の主要品種は別ですが、割とゆっくり考える時間がある様に思いました。

南半球産百合球根

16年産

当社ホームページに9月中旬現在の日本市場全体の発注確保数（輸出業社からの聞き取り調査ベース）が載せてあります。

品質傾向・その他につきましては近日発行する予定の在庫表と合わせてご報告いたします。

A.H/L.Aは、もう少し減るのかなあと考えていました。（17年産はN.Z産を中心にさらに減少する予定の様です…C.H産は？）

O.H/O.Tは、昨年より0.4%くらい減少の様です。（15年産北半球産減少と合わせれば、随分減少する様なので…。これで良いのか？）

よろしくお願ひ致します。

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。

P.S

本当は…

①八重O.Hについて

②O.Tに変化の兆し

③大手市場の百合切花流通・地方市場ユリ切花流通に変化の兆し…これは結構ジョッキング…。

それらの話題にも触れたかったのですが、また別の機会に。

以上
森山 隆